

科目名	<b>都市政策論</b>	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			法律学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記 (独文表記)	<b>City Policy</b> <b>Stadt- und Gemeindeverwaltung</b>	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	てらさこ ごう	実務家教員担当科目	修得単位	2単位	
担当者名	寺 迫 剛	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	<p>人はたった一人では生きていられません。ヒトの祖先は生存競争の闇を群れで生き抜き進化し、やがて人類は村に集い地を耕すことで文明の夜明けを迎えました。民主主義の輝きが古代ギリシャの都市国家を照らし、それから都市は人類史の進歩の最前線であり続け、市民革命と産業革命を経た近代都市の明かりが宇宙から見た地球全体を覆うかのようにまでなった現代。</p> <p>しかし突然の新型コロナ危機は、私達に離れ離れになることを強いました。それでも21世紀の都市は、ICT技術も活用しつつ様々な都市政策で、この危機を乗り越えようとしています。</p> <p>もちろん現代都市は、他にもたくさんの課題やリスクを抱えており、これらに応じた様々な取り組み、すなわち都市政策が展開されています。本講義では、具体的な都市政策の事例およびそれらを生み出す都市ガバナンスについて学ぶことで、私達一人一人が、一人では決して生きられない都市住民として、都市政策の担い手の一人であるという認識を涵養します。</p>				
到達目標	<p>① 現代都市が抱える課題とリスクについての理解を深め、</p> <p>② これらに対応する都市政策（論）についての知識を修得するとともに、</p> <p>③ 諸外国との比較の視点を獲得することで、一人一人が共に生きる都市住民の一員であるという認識を涵養することを目標とします。</p>				
授業概要	<p>① 注目すべき都市政策の事例について取り上げつつ、</p> <p>② 日本と外国（ドイツなど）の事例とを比較する視点を醸成し、</p> <p>③ 都市政策（論）の基本的な枠組みと機能について講義します。</p>				
授業計画					
第1回	オリエンテーション：そもそも都市政策（論）とは（スラング「大都会岡山」を逆手にとる県政・市政）				
第2回	都市の現状と分類① ・国における都市（化）の分類：「(政令) 指定都市」「中核市」「旧特例市」、について理解する				
第3回	都市の現状と分類② ・都市内における分類：「市街化区域」と「市街化調整区域」、について理解する				
第4回	都市の現状と分類③ ・各国における都市の分類【ドイツの事例】連邦レベルの「都市州」／郡レベルの「独立市」について理解する				
第5回	都市とガバナンス① ・大阪都構想の背景と顛末：二重行政の解消か、道州制論者の代替目標か ・東京の「特別区」とベルリンの <b>Bezirk</b> 、について理解する				
第6回	都市とガバナンス② ・“Who Governs? (仕切っているのは誰か?) “：首長選挙と住民投票、について理解する				
第7回	都市とガバナンス③ ・各国における都市ガバナンス：都市国家香港の行方／非民主主義国家の都市政策、について理解する				
第8回	都市で暮らす① ・「まち・ひと・しごと」：地方創生政策、について理解する				
第9回	都市で暮らす② ・都市のエネルギー供給とライフライン・公共交通、について理解する				
第10回	都市を新しくするコンセプト① ・コンパクトシティ：人口が収縮する時代の都市の在り方、について理解する				
第11回	都市を新しくするコンセプト② ・スマートシティとスパーシティ：「デジタル・トランスフォーメーション (TX)」／Toyota の Woven City				
第12回	都市政策の事例①：東日本大震災（福島第一原発事故含む）からの復興① ・復興の枠組みと防災・減災への取り組み：「復興特区」としての被災自治体、について理解する				

第13回	都市政策の事例②・東日本大震災（福島第一原発事故含む）からの復興② ・政策事例：防災集団移転事業、防波堤整備、復興公営住宅整備、福島県下の特定復興再生拠点区域
第14回	都市政策の事例③：新型コロナ危機 ・各国の都市ロックダウン／日本の事情事態宣言と蔓延防止等重点措置、について理解する
第15回	本講義のまとめ：結局のところ、都市政策（論）とは
第16回	定期試験
授業時間外の学習	予習2時間：講義のテーマに関する情報に積極的に接し、疑問点および現時点での考えをまとめておく。 復習2時間：講義を踏まえつつ、レジュメ等をもとに、各自オリジナルのノート（A4版1ページ程度）をまとめる。
履修条件 受講のルール	カリキュラムの規定のとおりです。
テキスト	植田和弘・西村幸夫・神野直彦・間宮陽介編『岩波講座 都市の再生を考える（第1巻）都市とは何か』（岩波書店、2005） 西岡晋・廣川嘉裕編『〇〇行政学（タイトル未定）』（文眞堂、2021 予定近刊） 宇野二郎・長野基・山崎幹根『テキストブック地方自治の論点』（ミネルヴァ書房、2021 予定近刊）
参考文献・資料	松下圭一『都市政策を考える』（岩波書店、1971） 植田和弘・西村幸夫・神野直彦・間宮陽介編『岩波講座 都市の再生を考える（第1巻）都市とは何か』（岩波書店、2005） 秋吉貴雄『公共政策学入門』（中公新書、2017） 岩崎正洋編『政策過程の理論分析』（三和書籍、2012） 井手英策編『雇用連帯社会』（岩波書店、2011） 縣公一郎・藤井浩司編『ダイバシティ時代の行政学』（成文堂、2016） 秋月謙吾・城戸英樹編『政府間関係の多国間比較』（慈学社、2021） 宇野二郎・長野基・山崎幹根『テキストブック地方自治の論点』（ミネルヴァ書房、2021 予定近刊） 西岡晋・廣川嘉裕編『〇〇行政学（タイトル未定）』（文眞堂、2021 予定近刊）
成績評価の方法	期末試験の成績に基づきつつ、講義への参加状況も踏まえ、総合的に評価します。 ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4限および木曜日1限
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点） 期末試験55%、小レポート15%、出席率を含む講義への参加度35%
実務経験及び実務を活かした授業内容	—
学生へのメッセージ	具体的な都市政策の事例およびそれらを生み出す都市ガバナンスについて学ぶことで、私達一人一人が、一人ではけっして生きられない、生活圏を含めた都市の住民として、都市政策の担い手の一人であるという認識を涵養します。